

基本理念

区民一人ひとりが主人公、 身近なあいさつから広がる地域の輪

2025年(平成37年)には、75歳以上の高齢者が3,500万人、高齢世帯の7割がひとり暮らし・高齢夫婦のみ世帯が占めると見込まれています。子どもがたくさん生まれているこの宮前区においても、高齢化は着々と進んでおり、決して例外ではありません。

そんな中で、私たちの多くは「年をとっても、障害を持っても、自分の家で自分らしく暮らしたい」と願っているのではないのでしょうか。人と人とのつながりがあって、助け合える、住みやすいまちづくりは、他人のためだけではなく、将来の自分のためでもあると、多くの区民が感じているはずです。

地域福祉は、私たち一人ひとりが、持てる能力を発揮し、誇りを持って地域で暮らしていけるよう、区民一人ひとりが主人公となって、共に生きるまちをつくることです。そのためには、身近な人とあいさつを交わし、お互いを知り合い、助け合えるつながりをつくること。さらに、行政を始めとした様々な団体・組織・機関との協働・連携を通じて、地域福祉を推進する大きな流れを生み出すことが大事だと考えています。そのような、人と人がつながるまちづくりを目指して、宮前区ではこの理念を定めています。

宮前区の地域福祉の課題

地域福祉の実態を把握するため、以下の取組を行いました。

- 第3回川崎市地域福祉実態調査
- 区役所職員アンケート
- ワークショップ
- 団体のアンケート

地域福祉を
推進するために
こんなことが
求められて
います！

- 住民同士の交流と助け合い
- 地域ぐるみでのひとり暮らしや高齢者世帯に対する見守り
- 利用しやすい相談体制や適切な情報提供
- 地域活動団体の活動場所や人材の確保・育成
- 地域活動団体同士の交流や行政サービス・社会福祉協議会との連携

